

第9回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー

「現代のライフイベントから学ぶ研究者の持続可能なライフプランとは？」開催報告

2022年9月15日に日本放射線影響学会第65回大会において第9回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーが開催された。今回は「現代のライフイベントから学ぶ研究者の持続可能なライフプランとは？」と題して、さまざまなライフイベントについて、仕事との両立の難しさ、どのように乗り越えようとしたのか、などに関し、リアルタイムアンケート、特別講演とパネル討論を通して理解を深めることを目指した。

最初に、リアルタイムアンケートにより参加者の各ライフイベントに対する期待/不安の意識調査がなされた。年代ごとに、その年代で特に直面しやすいライフイベントに対する意識が高いように感じた。中でも比較的若い年齢層の方々で関心事として「介護」を挙げた参加者が多いのが印象的であった。

第一部として巽真理子先生（大阪公立大学女性研究者支援センター）より「ケアとジェンダーから考える研究者のワークライフバランス」についてご講演いただいた。研究という職業における女性の割合が未だに低い日本の現状とともに、大阪公立大学のこれまでの取り組みについてご紹介いただいた。夫婦共働きが当たり前となっている現代でも、女性が育児や家事にかかる時間は男性よりも長い。そこには母性愛や三歳児神話といった「生来的に育児の特性を持った母親像」があり、養育に専念しなければいけないという無意識のバイアス、アンコンシャスバイアスがあることが大変印象的であった。ワークライフバランスという言葉が現在は定着しており、最近では、さまざまな施策や職場でのサポートによりワークライフバランスの改善が認められる。研究者にとってはもう一つのワークである「研究」があるが、そこへのサポートはまだ不十分である。巽先生は「ワーク（仕事）・ワーク（研究）・ライフ（家事）バランス」をとることが大事だとおっしゃっていた。また、「実際に研究者支援をやってみると、女性の問題は男性の問題でもあった」という言葉が印象深い。それぞれの家庭が抱える問題は多様であるが、共働きが標準となった現代では個々が自立して支え合うことが肝要で、それに伴う職務上の問題点は男女共通、どちらかを支援すれば解決する問題ではないことを再認識できた。

次に、第二部として「現代のライフイベントから学ぶ研究者の持続可能なライフプランとは？」と題したパネル討論を行った。パネリストとして、島田義也氏（環境科学技術研究所）、岡崎龍史氏（産業医科大学）、朝田良子（大阪公立大学）、吉野浩教氏（弘前大学）、藤通有希氏（電力中央研究所）そして藤本えりか氏（麻布大学）にご登壇いただいた。最初に「現在・過去含め、パネリストの一番のライフイベントにおける関心事は何か」についてパネリストにご発言いただいた。その後、個別の質問を通し、参加者のライフイベントに対する理解を深めた。本企画セミナーでは初めて「介護」について扱うことにしたため、主に研究機関に在籍する研究者等に対し、「介護アンケート」を事前に行い、その結果もあわせて紹介した。このアンケートでは性別・年代問わず誰でも突然訪れ、避けられない、肉体的精神的に

もつらいライフイベントであることが参加者に示された。

若手から中堅のパネリストからは結婚・出産・育児と仕事との両立についての話が多く聞かれた。産休、育休で評価が悪くなるのではないかと不安が切実な問題と感じた。その点、管理職の世代からは有事の際の相談相手、手を貸してくれる上司や職場の人たちとのコミュニケーション、そのための信頼関係を日ごろから構築しておくことの重要性が示され、管理職世代が「必要なときに気兼ねなく休むことができ、必要に応じて仕事のサポートができる職場であるべき」という考えで、若手や中堅世代は心強く感じたのではないかと思った。前もって準備をしておくことの重要性、そして助けてもらったときの感謝が大事であるとメッセージはどのライフイベントにおいても重要なことであると感じた。介護については、突然のライフイベントのケースが多いため、このことが特に当てはまると感じた。巽先生のご講演で「手を差し伸べたいと思う人がいても本人が言ってくれないと手を差し伸べることができない」とおっしゃっていたが、助けを求めるエネルギーを蓄えておく重要性和、周りが助けを求めやすい環境を作っておくことが大事であると感じた。

パネル討論を通して仕事とライフイベントの両立を可能にするための制度は、少しずつですが整ってきていることを感じた。その一方で、キャリアが途切れてしまうと再就職が難しいことが自由なライフプランを立てる障害になっており、研究職のポストの削減が更にその状態を厳しくしているように感じる。様々なライフイベントに対応しつつ、一旦途切れたキャリアを再形成し、さらに発展させようとしているパネリストの姿勢は若い参加者の今後の選択肢を広げるヒントになるのではないかと感じた。

最後に、2 回目のリアルタイムアンケートによる意識調査では、関心事の変化について、特に介護に関する意識の変化が大きかったように見えた。

本企画セミナーでは時間の関係でライフイベントすべてを網羅できていないこともあり、一つのゴールはなく、参加者一人一人が自身のコンテキストで、感じ取ったものが、それぞれに合ったライフプラン設計の一助となれば幸いである。

企画・運営：日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画委員会

委員長 飯塚 大輔（量子科学技術研究開発機構）

副委員長 石川 純也（杏林大学）

委員 朝田 良子（大阪府立大学）

池田 裕子（近畿大学）

恵谷 玲央（大分県立看護科学大学）

坂田 律（放射線影響研究所）

砂田 成章（順天堂大学）

保田 隆子（日本女子大学）

吉田 由香里（群馬大学）

後援：男女共同参画学協会連絡会 日本放射線影響学会若手部会・SIT プログラム小委員